

Acu-journal

発行所 M・S・A会事務局

〒107 東京都港区南青山
2-24-12
(谷クリニック内)

編集者 谷 美智士
発行人 間中喜雄

M・S・A会 (Medical Study of Acupuncture) 会報誌

いよいよ国際東洋医学協力会発足!!

—準備委員会にて54年4月ソウルにて発会—

谷 美智士

先だつてのMSA会の韓国訪問(後頁参照)の成果を受けて、MSA会とは独立した形で国際東洋医学協力会(国際医療協力会改称)のソウル開催のための準備委員会が11月18日(市ヶ谷ルーテルセンター)で開かれた。東京近郊の主だったメンバーに四国の清水、名古屋の志水共先生も加わって行われ、協力会の将来をも考えて真剣な論議がなされた。これより先(51年夏)に行われた世話人会で国際協力会に対し、MSA会は全面的に援助するとの決議がなされ、総会において承認されているが、今度ようやくして名実共に発足しようという段階になったわけである。そしてこの度の準備委員会は主に次の決定を行った。

1. 国際東洋医学協力会はS54年4月28日～5月1日の間にソウルで行うことを希望する。
 2. 慶熙大学創立30周年記念行事の1つとして行われることを希望する。
 3. 近い将来、MSAから2、3名を前もっての話し合いに派遣する。
 4. 今後大会に要する費用は会費の中からまかない不足分は徴収する。
 5. 附帯行事として医療奉仕を行ない、その中から各国の技術をお互いに学びとる。
- などの決定を行なった。なお、派遣員は、今回の韓国の訪問者の中から選び、人選は谷副会長に一任されることになった。(谷美智士記)

目次

| | | |
|-------------------|-------|----|
| いよいよ国際東洋医学協力会発足!! | 谷 美智士 | 1 |
| MSA会韓国を訪問で数々の成果!! | 谷 美智士 | 2 |
| MSA例会報告 | | 4 |
| 経絡講話(2) | 間中喜雄 | 4 |
| 経絡と生薬 | 張 明澄 | 5 |
| 歯科領域に於ける針灸療法 | 尾沢文貞 | 6 |
| MSA会韓国紀行 | 池田晃一 | 7 |
| 「臨床歯科ハリ医学セミナー」 | 松平邦夫 | 8 |
| 再び香港ハリ麻酔研修による新発見 | 福岡 明 | 9 |
| あとがき | | 10 |

M S A 会 韓国を訪問で数々の成果!!

M S A 会副会長 谷 美智士



柳教授を囲み訪問団一行

M S A 会として初めての外国活動は、我が国に一番近い韓国訪問として実現した。本年10月8日から11日までの3泊4日、M S A 会の韓国訪問団一行20人は無事訪問を終え、訪問団としての成果と共に各人それぞれの収穫を得て帰国した。

そもそもこの韓国訪問を実現させるまでには約2年もの歳月を費やしている。約2年前の正月に、当時慶熙大学の現役教授であった柳教授の突然の訪問があり、M S A 会との国際交流を持ちたいとの提案をうけたのである。その後期の熟するのを待ちながら、M S A 会世話人会を2回にわたって開き検討を加え、ようやく今回実現したものである。

❖❖ <予測を上まわった希望者> ❖❖

M S A 会事務局としては初めての試みでもあったので、一応20名の予定で航空席、ホテルの予約を取っていたところ、かなりの数の希望者があり、急ぎよ人員増の手続きをとった。ところが、旅行期間が連休をはさんでおり、しかも旅行シーズンにあたっているため不可能となり、やむなく断念していただかなければならなかったのは残念に思う。世話人や事務局の見通しの甘さを痛感させられた次第である。

さて出発の日、一番心配されることは忙がしい臨床家の方々故、突発の事故などで出発出来ない人

があるのではないかということであったが、成田空航で皆さんお元気な顔を拝見して、全員無事になって機上の人となることが出来たことは喜ばしい。歯科からは松井先生が参加された。

❖❖ <可愛い花の観迎> ❖❖

航空機の都合で2時間近くも遅れてソウル郊外のキンポ空港に着いたが、韓国に来る毎に空港前の活気と混雑が増していくのに驚かされる。空港では一行を待っていたバスの上で、柳教授やソウル市内の漢医師の方々、中でも若い女医さん達から可愛い花のプレゼントが一行の心をなごやかにしてくれた。

夕食をすませてアンバサダーホテルの部屋に落ち着いたのは、もう12時に近かった。遅くなった原因が国際線航空機の遅れとはいえ、今回はこのようなことがない様に気をくばらなければなるまい。少しきついが翌朝9時にホテルを出発することになった。

❖❖ <学ぶべきシステム……漢方病院> ❖❖

ホテルの前からタクシーに分乗すれば慶熙大学漢医科附属漢方病院は20分たらずのところにある。ソウル市内のはずれで、科学技術庁や軍の施設などがある割合に静かなところにある。慶熙大学はなだらかな丘陵地帯に広大な敷地を持ち、十二の専門科を持つ総合大学である。私立の大学としては最大級のもので、東洋一と自慢されるのも無理はない。漢方病院はそれ等総合施設の門のすぐ横にあり、西洋医学の病院と並んで立っている。いわば市内に一番近いところにある。

1、2階は外来と研究施設、3、4、5、6階は、医局及び入院室である。300床に近い病床を持つという。設備で参考になった点は、リハビリテーションには積極的に西洋医学的な療法と設備を取り入れており、洋漢合作の感があること。入院患者には全員煎薬を用い、別に煎薬専用の部屋で各患者一人一人用の薬を煎じる。それを魔法ピン

に入れて投薬すること。看護婦詰所が大変オープンになっているなど。又特別室にはオンドルが敷かれてあり、お国柄がうかがえた。オンドルはいわば床式暖房で昔は煙を通していたのだが、現在は電気や石油でやる人が多いという。

診療科目は東洋医学的に臓腑別に分かれ、出来るだけ純漢方的な診療が行われる。そして東西両医学の接点としてセンターが設立されており、お互いに症例を持ち寄って検討が加えられ最良の方法が取られるようになっており、不要の摩擦は避けるように工夫されている。又診療内容としては、例えば針灸科を例に取ってみると、先ず病種として大きく二つに分けられており、半身不随などの麻痺の治療と、もう一つは疼痛疾患である。治療法としては針灸の他に指圧（手技調整）療法、瀉血（吸血）療法、導引（東洋医学的運動療法）、総合可視光線及び電磁機療法などがあり、これに合せて断食と生食療法も行っているという。

❖❖ 金学長と柳教授をMSA会の参与に ❖❖

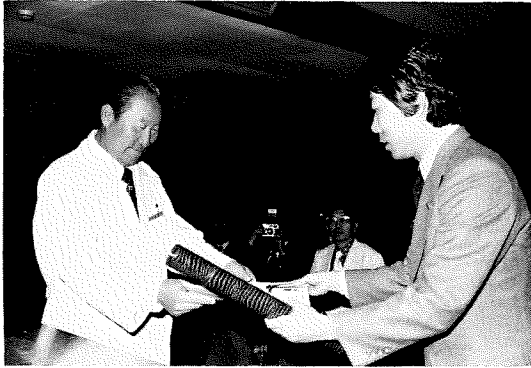
午後から予定されていたMSA会の研修は、先方の休日の都合で11時30分からくり上げて行われた。同じ漢方病院内の講堂で漢医科大学の金学長と柳教授の二人が演者である。金学長は、韓国の漢方医学の成り立ちとその特質について話され、関節リウマチを例に上げて説明された。続いて柳教授は置針の時間と効果に関する講演を行われたが、時間が少なくもう少し聞きたいところであった。終了後に日本国のMSA会から金学長と柳教授にMSA会の参与の証に金一封がそえて贈呈され会場の盛んな拍手をあげた。今後共、両教授には韓国を代表して我がMSA会に御協力をお願いしたいものである。

研修会終了後、ソウル市内のとある一般の焼肉店で遅い昼食を取り、夜の親睦会までの間の数時間をショッピングで楽しんだ。韓国での買物は何と言っても紫水晶に衣服、特に婦人用のシボリと男性の背広や服地であろう。その他、我々MSA会員とすれば一部の生薬は買いたいところである。又或る人は白磁や青磁の釜元まで行って掘り出し

物を見つけた人も居た。日本で20~30万のものが数万で買えるのだから好きな人は良い土産になる。

❖❖訪問成果の終結、はずんだ親睦会❖❖

夜の親睦会はお別かれパーティをかねて、MSA会が韓国側を招待する形で行われた。場所はアンパサダーホテル内の国際会議も行われる大広間を仕切った会場に、中華料理で行われた。会場には我々MSA会全員とその婦人が出席し、韓国側は柳教授をはじめ、韓国漢医師協会会長の金先生も臨席して盛大に開催された。まずMSA会から



金漢医科大学学長と谷団長

の観迎の挨拶から始まった。続いて柳教授は国際協力会が明年ソウルで創立大会を開く決意を述べられ、李漢医師協会会長からは、今回は準備不十分であったが、次回は漢医師協会として協力したい旨の言葉を受けた。

なごやかな中に会は進行し、ほろ酔いかげんで余興の一、二が始まった頃、韓国側から歌合戦の挑戦がなされた。日本側も負けるものかと応戦することになり、女性それぞれ二名づつを選出し、これを審査員にしたてての歌合戦とはあいなった。結局、優劣決まらず傷み分けとなり、次回の創立大会までおあずけとなった。会も終りに近づく頃、突然、柳教授から出席の会員全員に円形で直径30cmもあろうという金属性のりっぱな楯とバッチが贈られることになり、一同感激した次第である。これは国際東洋医学協力会の会員証にも代わるもので、一生の記念になるようにという韓国側の心使いであった。

翌日は二つのグループに分かれ、ソウル残溜組と他は一泊の慶州観光に出発した。慶州の様子は後に池田先生の旅行記がある。

かくして1979年に再びソウルでの会見を約して韓国を後にしたのであった。

MSA 例会報告

第15回MSA会例会は、昭和53年9月9日(土)、10日(日)の2日間、市ヶ谷の家の光ビルにて開催された。

第1日

9月9日 PM 2:30~3:30

間中喜雄 先生

「経絡講話 その2」

9月9日 PM 3:30~5:00

松枝張 先生

第2日

「針灸理論とガン」(その1)

9月10日 AM 9:30~12:00

張明澄 先生

「経絡と生薬」

9月10日 PM 1:00~2:30

尾沢文貞 先生

「歯科領域に於ける針灸療法」

経絡講話(2)

間中喜雄先生

中国の古い文献の素問・靈枢をみると正穴また

は経穴といわれるものは1年の日数に対応して365

穴あるという。骨の数もやはり365個あるといっている。しかし、これ以外にもツボの数は多くあり、日本の岡本一抱は400以上のツボをあげている。最近中国の陝西省人民出版社からでた「経外奇穴図譜」には1007のツボがあげてあり、全体として左右で2000位あるのではないか。アメリカのチョー氏によるとアメリカの針灸は平均してツボの数が80、少ない人で10～5位で治療しているという。そこで2000位のツボから、目の前にいる患者にどのような組合せでとるかというシステム化（システムとはある目的意識で集合化すること）が必要となってくる。どういうふうにしたらベストなのかは難しい。中国では複雑化の方向にと行っているが、単純化の方向にもむかっている。簡素化の方向として①ツボの数を少なくする。②手技を簡素化する。③考え方を簡素化する。の3つが考えられる。最近中国ではこの一つとして手根・足根針というものがあみ出された。これは体を従軸方向に前後6つの区に分け、上・下の境界を横隔膜においてある。そして相当した病変または症状により、手根、足根部に浅く皮下に沿って4～5cm以上、30分～1時間置針しておくのである。そして2時間の実習で、89%の治療効果をあげている。簡素化の考えからいえば、経別・経筋・奇経治療もそうである。奇経には吾々は8つのツボを使ってイオンポンピングを使用している。そして体を次のように区分し全体として8分画の面をもつ

ていると考えている。

左右の分画…正中線で分ける。任・督脉。

上下の〃…膈〃 帯脉

前後の〃…三焦・心包・肝・胆経

以上は体を面としてとらえたものであり、体のわれめがその境界となっていることに注目したい。次に線という問題については、経絡は連続か非連続ということがある。ツボを使って治療効果をあげることは、非連続的な考え方である。中国ではこれを連続的なものとして考えている。例えば陰は上り、陽は下るということもそうだろうし、迎随という考え方もそうであろう。中国ではしかし、最近では得気感覚を重要視しているのでこれからすれば余り方向性などは問題としないようである。線と面との以外に松枝氏のいうタイムファクターも考慮する必要がある。

このようにしてから、実験にうつられ、合谷の圧痛を大椎においた皮内針の上下方向性で消去・再現され、次いで大腸経上の任意の二点においた磁石の川上にN、川下にSをおくと圧痛はとれ、逆にすると痛みが再現した。これは連続性であるということと、序列ということが問題となる。更に耳点の大腸点にNを接触すると反対側の合谷に圧痛が出た。電磁波とも関係するらしい。最後に交叉現象からいえば右側の胸脇苦満は左側下腹部の瘀血という交叉現象という考え方も重要であるといわれた。（吉元抄）

経絡と生薬

張 明澄

中国医学に「薬物帰経」という言葉があり、その意味はどの薬物が、どの経絡に属するかということである。薬物と経絡を対応させることについて、日本ではずいぶん取りざたされてきたが多くの議論に反して射的を射たものは全然なかったといえる。それは日本では薬物と経絡にくわしい人が乏しいためである。麻黄が「膀胱」「肺経」の薬物とされるのは肺経の特徴である咽喉痛や喘咳に、また膀胱経の特徴である項背痛、高熱などの症状にたいして有効に作用するからである。それ以外

の理由は全くなく、ましてや麻黄の形は肺や膀胱に似ておらず、味も色も肺や膀胱を連想させるものは持っていないのである。

経絡とは、たんに経穴と経穴を結びつける仮想の線にすぎないのである。もちろん生体の中には何の物質的所見もない。古代人はまず身体の中の特定部位を刺戟すればどんな症状が治るかを経験的に知って経穴という概念を確立した。そして同時に経穴と症状の対応もいちおう形成され、それから同じ性質をもつ経穴を仮想の線で結びつける。

その結びつけかたは、性質の近い経穴をつらねるのである。たとえば魚際、大淵、経渠、列欠、孔最はみな咽喉症状を治せる経穴として共通点がある。したがってこれらの経穴群を手太陰肺経と命名した。其他は之に準ずる。

経絡の診断について一言ふれると、患者が現在あらわしている諸症状から一つの経をとりあげるか、二つ以上の経をとりあげるか、流儀があるが、演者（張）は前者の一つの経を選別してとりあげの方法をやっているののでそれについて説明する。（抄録者注：経絡薬学の真髓 張明澄著 P82参照されたし）

つぎに的経についてのべるとき、薬物の病位を表現する場合、ふつうは「三焦」「心包」を抜いて十分類する。経絡によって分類された薬物は、膀胱薬、肺薬、胆薬、(三焦薬をふくむ)心薬(心包薬をふくむ)胃薬、脾薬、小腸薬(三焦薬をふくむ)大腸薬(三焦薬をふくむ)腎薬(三焦薬をふくむ)肝薬の十種である。次に重要な薬物の帰経をあげる。

膀胱薬：麻黄、桂枝、葛根、柴胡、甘草

胆薬：柴胡、枯草、黄芩、黄連、茵陳、川芎、甘草

胃薬：にんにく、半夏、麦門冬、白朮、枳実、

乾姜、呉茱、蒼朮、山豆根、辺豆、大黄、芒硝、葛根、生姜、葱白

脾薬：葛根、大黄、麻仁、蒼朮、沢瀉、猪苓、茵陳、苡仁、陳皮、枳実、人参、黄芪、山藥、白朮、大棗、蜂蜜、半夏、にんにく

腎薬：金櫻、五味、山萸、昆布、天冬、阿膠、熟地、杜仲、枸杞、遠志、苡仁、車煎子

肝薬：防風、薄荷、菊花、柴胡、大黄、犀角、干黄、へちま、黄連、連翹、茵陳、虎骨、呉茱、牡蠣、酸棗仁、牡丹皮、天馬、鈎藤、青皮、艾葉、川芎、杜仲、熟地

肺薬：麻黄、菊花、葱白、升麻、桂枝、人参、杏仁、防風、銀花、桔梗、茯苓、乾姜、紫蘇、細辛、麦門冬、附子

心薬：黄連、細辛、大黄、牛黄、木通、円参、生地、貝母、川芎、銀花、附子、紅花、茯苓、乾姜、連翹、犀角、当歸、遠志、竜骨、鬱金

小腸薬：木通、甘草、生地、石膏、竹葉、車前、附子

大腸薬：大黄、王倍、升麻、巴豆、麻仁、花粉、甘草、白芷、石膏、芒硝、附子、厚朴、香附、乾姜、旋花、麻黄、黄芩、黄連、檳榔 (抄録 森)

歯科領域における針灸療法

歯科分科会抄録 尾沢文貞

歯科治療に針を導入して4年余りになりますが、針麻酔を利用しての抜歯500余例、何らかの形で針を使用した患者は千人以上になるでしょう。その

間、針治療導入には波があり、いろいろ成功例、失敗例を経験致しました。その結果、針治療を併用すると事後が良い、たとえ麻酔効果がその時少

O R

当社は、昭和48年2月に創立された東洋医学関連企業です。東洋医学を研究される先生方のご要望にお答えするため、また、新しい情報を提供するために、日夜努力いたしております。

株式会社 オリエンタル・リサーチ

東京都渋谷区宇田川町36-6 新大宗宇田川ビル
☎ 03-469-0494

なくても、後が楽である、という事を実感として得ました。

忙しい毎日の診療の中で、いかに楽に、患者に抵抗なく針の効果を導入できるか、その試みとして、針治療併用の歯科治療なるものを当院内でシステム化してみました。

まず、取穴は、

上顎：左右合谷、患部側下関、あと部位によって巨膠、水溝、四白、迎香より1穴

下顎：左右合谷、患部側下関、あと部位によって頰車、大迎、承漿より1穴

以上のように4穴を主体にとります。

抜歯、膿漏手術、インプラント等外科手術、有髄歯の支台歯形成時及びオーラルリハビリテーションの装着時の患者は、あらかじめ、歯科治療に入る15分位前により、低周波置針法により針治療を行っておきます。多くの人に針の効果を導入したい気持ちから、子供や、針に恐怖感のある人、初めての人などは、S. S. P. 電極（別名三角ツボ電極）を用い、針を刺すことなく、ツボ上に電極を貼ります。この電極を使用することにより、患者の針に対する恐怖感をおそれることなく、針治療導入ができるようになりました。又、助手の

活用により、歯科治療に入る前の段階が準備できることも助かります。開口しながらの歯科治療には、下関にS. S. P. ポイントを置くことにより、折針のおそれがなくなります。針とS. S. P. ポイントの効果は、経験上、短時間ではやはり針にかないませんが、15分以上している場合、変りないように思われます。

その他、開口障害、矯正治療で矯正力が強過ぎた場合にも針治療は有効ですし、更にオーラル、リハビリテーションなどで、歯牙を連結するため、金属の歪で歯がしめつけられるような感じを訴える患者にも非常に有効です。

針治療を併用したお蔭で緊急の痛みの処置はもちろん、後疼痛を伴わないやすい歯科治療に針は救い主といえます。特にインプラントのような骨の削除とか、骨に及ぶ外科処置が安心してできるようになりました。痛みの少ない歯科治療をめざして、針麻酔だけに固持することなく、笑気麻酔も併用しています。日常の臨床例をスライドで200枚程見て頂きました。忙しいとおっくうになりがち針治療を克服するには、どうしてもシステム化が必要です。

MSA会韓国紀行

池田晃一（9回生）

10月8日（日）17時30分、18名の韓国ツアーの一行は成田空港を2時間おくれで離陸した。（CX450便）金浦空港着陸後直ちにバスでソウルへ直行。2時間おくれのためソウル駅前の焼肉店で簡単な夕食をとる。アンバサダーホテルに着いたのが午後10時半。気候も日本の仙台位の緯度なので暑くなく寒くなく快適の気温で、当夜は旅の疲れを癒すため早目に床につく。早朝家を出てから床につくまで丸一日何もしないで、本当につかれた。

翌10月9日（月）は今回旅行の第一の目的である慶熙大学漢医科大学附属漢方病院の見学に一行打揃って午前9時にタクシーで出発した。病院見学に先だち院長で哲学博士でもある金定済氏と会見。それから院内をつぶさに外来→入院の各部屋

を1時間に亘って教授の案内で興味深く丁寧に見学した。それから見学の印象を述べたいところが亦の機会にゆずることにして先に進もう。

0時半から学長兼院長の金博士の講演があり韓国の針灸の歴史から慶熙大学漢医科附属病院の実情とその他の有益なお話を30分に亘りお伺いした。次に同大学外来教授の漢医学博士柳根哲氏の留針についてのお話があり大変勉強になった。

終って病院前で記念撮影があり、ホテルに帰る組と柳根哲氏の漢医院を見学する組とに分かれた。ベットは8床で1日60名の患者を毎日診て居られる由。針灸の開業医の実態をみて大変参考になった。

話は前後するが講演会のあと一行と国際東洋医学協会の皆様との合同昼食会を病院の近隣の焼



楽しい日韓親善のど自慢

肉やの老舗〇〇亭でたっぷり賞味した。老舗といってももう改築する寸前の傾きかけた木造店には驚いた。

夜はMSA会主催で日韓親善のパーティーをホテルの宴会場で午後6時から開催された。谷美智士副会長の挨拶から始まり、大韓漢医師協会会長李錦浚氏、次いで柳根哲氏の国際東洋医学協会の発展と来年の10月にはソウルに於てこの大会を開催するのでMSA会員の大挙来韓を希望され、協会の会員バッジと真鍮のプレートを一人一人贈られ第一部を終った。第二部に入り日韓会員ののど自慢などがあり目度くパーティーは終了した。

翌朝希望者のみ(12名)慶州・釜山の旅につく。東京駅的设计者の建設に成るソウル駅は東京駅を小さくしたようなもので、この駅から特急列車で

東大邱駅迄3時間の列車の旅の人となった。

窓外の景色は他国の景観とは思われない日本の秋と何等かわらないものであったがソウル市街と同じく家屋の屋上にはキムチ(漬物)の瓶が沢山並べてあり、このカメが多い家ほど金持ちの由。一般の韓国人は焼肉とこのキムチさえあればおかずは何もいらないと聞く。

車内で昼食をとり午後1時半に東大邱駅につく。ホームでいそいでウドンの立喰いをほおぼり、専用バスにて高速道をまっしぐら佛国寺をまわり、博物館、廟を観て、海水浴場で有名な釜山に入ったのは午後7時すぎであった。直ちに一流のレストラン〇〇亭でバンドつきののど自慢となり、楽しい一夜を過した。

早朝の海岸に出てみたらまるですみ絵のようなすばらしい景色を見ることが出来たのは何よりの収穫であった。午前7時ホテル出発KE122便でソウルへ直行。残留組と合流し金浦空港より成田に向けてまっしぐら。3泊4日の旅は終わった。

今回の旅行での印象は慶熙大学校漢医科大学附属漢方病院見学はなんといっても一生忘れられないものである。また柳根哲漢医学博士の心温まる御好意と国際東洋医学協会の皆様の御親切には心から敬意を表するものである。国際東洋医学協会の発展とMSA会の大発展を祈りつつ筆を擱く。
—1978.11.17記—

MSA 会員がプランナーとなって行われた 「臨床歯科ハリ医学セミナー」

MSA 会副会長 松平邦夫

針灸医学を日本診療に応用したい希望とする臨床歯科医が多いとの要望に答えMSA 会員で日大松戸歯学部谷津三雄教授がプランナーとなって実技を主体にして第一回臨床歯科ハリ医学セミナーが去る11月18、19日東京に於て開催されました。

北は北海道から南は沖縄と全国各地から熱心な受講者が参加された。その日程表は次の通りであるが、特に他のセミナーとの相違点は、従来は講義を主体とした概念的な内容であったせいか、受

講者の殆んどが、その後実際にハリを臨床に応用していないという現状から今回のセミナーは、ハリのテクニック実習時間を2時間以上も掛け、8mm 映画やスライドで刺針法や注意事項を示した後、受講者10名に1名の指導医を配置し、きめの細かい実践指導を行ったことである。

受講者は、講座終了迄に主要5穴に確実に針を自分自身の体や他人の体に刺入するという基本技術を身につけるという実習が行われ、予定時間が

過ぎても熱心に確実に続けられた姿に敬意を表したい。そして数多くの受講者の先生方が口々に「この様な充実したセミナーは今回が初めてだ!!学生時代にかえった気持で、すがすがしい……」と喜んで語られた感想を私は素直に受け止める事が出来た次第である。

針灸医学発展の為には『受講はしても実践しない…』人が皆無になる様にプランニングが行われ

なければならぬと痛感した。

プランナーの谷津教授を補佐した講師の1人としてここに各講師の先生方に謝意を述べるとともに実習指導に当られた各先生方にお礼を述べる次第です。

今後回を重ねる事に依ってMSA会が日本のいや世界の針灸の発展の基礎造りの母体となる事を切望したい。

日 程 表

| 月日 | 時 間 | 講師(敬称略) | 内 容 | 月日 | 時 間 | 講師(敬称略) | 内 容 |
|-----------|---|-------------------------------------|--|-----------|------------------------------------|---------------|--|
| | 9:00~10:30 10:40~12:10 | 谷津三雄 福岡明 | 歯科における東洋医学の必要性 針治療の歯科臨床への導入 (昼食) | | 9:00~10:30 10:40~12:10 13:00 | 松平邦夫 河村洋二郎 | 電経療法と刺絡療法 ハリ麻酔に対する生理学的見解 (昼食) |
| 11月18日(土) | 12:50~13:50 14:00~15:00 15:10~16:10 16:20~17:50 18:00~19:00 | 大西周 国島康夫 花上弘昭 木下晴都 渡辺敏夫 | 中国針による多数抜歯の症例報告 急性の疼痛に対する針の応用について 針灸医学の概要とその実際 針灸の歯内療法領域への応用について 歯科における耳診法 | 11月19日(日) | 15:30 15:40~16:40 | | 実習 (1)針の刺入方法を8ミリ映写で解説した後、直ちに指導医がグループごとに指導する。 (2)歯科領域に应用される経穴の1つ1つをスライドにより解説し、直ちに指導医がグループごとに指導する。 (3)刺針を完全にマスターするまで指導する。 質疑応答 |

再び香港ハリ麻酔研修による新知見

歯科 福岡 明

本年9月、歯科医師を対象とした中国ハリ麻酔研修講座に、団長として12名の研修生を引率して、再び香港の中日中医薬学院を訪れた。その折、研修生とは別に、同院の游国昶教授と情報交換をもった際、極めてホットなテクニックを伝授されたので、その一部を報告する。

◎ 新穴

治 聾Thsu—Long=耳垂下5分の下顎骨縁の裏側
立 新Ri—Sin=耳垂と下顎隅角の中点
喜 通Shi—tong=下顎角突起部の後縁の裏側の圧痛点、(内翼突筋の附着部)

は、下顎臼歯部の鎮痛及び抜歯に卓効があるとし、下顎骨後縁から前方患歯に向け刺針する。又は、頰車と喜通、立新、又は下関や耳垂と治聾とを組合せ指圧麻酔を行う。

◎ 刺絡法の利用

急性歯髄炎や軟組織の炎症時に

- (1) “委中”部の静脈を真っすぐ三稜針で刺絡し、出血をみたら直ちに圧迫止血を行う。高血圧患者にも適用できる。
- (2) また、“少商”、“商陽”さらに耳穴の“交感”を取穴し、刺絡を行う。

Pulには90%以上、Pericoには40%の効果を示すという。

◎ 高血圧患者の抜歯には敢えて、最初に血圧を下げなくとも抜歯の適用穴に刺針すればよいが、特に200Hg以上ある患者には、“曲池”“足三里”に瀉法を適用する。又、“人迎”“風池”“太衝”もよい。

◎ 吉林省病院で行っている新取穴処方
歯髄炎=太谿+腎俞
歯槽膿漏の急性炎=下関+四白+頰車
顔面神経痙攣=牽正

頰車+四白+糸竹空

地倉+陽白+攢竹

禾髻+太陽+巨髻

以上の穴を交替に取穴し、直刺、中道刺激を加える。顔面神経麻痺も同様の耳穴をするが、次の穴を透穴（刺）するとよい。

- 地倉 — 頰車
- 頰車 — 下関
- 下関 — 顴髻
- 四白 — 地倉

◎ 急性の炎症時の抜歯には

- 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 禾髻 — 巨髻
- 四白 — 迎香
- 7 6 | 6 7 顴髻より上後方患歯部まで
- 8 7 | 7 8 太陽 — 下関
- 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 承漿 — 頰髻
- 8 7 6 | 6 7 8 大迎 — 頰車

を透刺（穴）する。

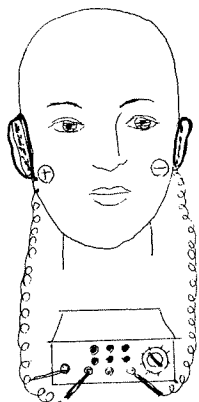
◎ 耳根環電刺激

（被験者800名中 94.6%成功1978年発表）

一適用一 顔面、口腔領域の手術

一方法一 生理的食塩水に浸した薄いガーゼで包むか、又は、太い綿糸を巻いた銀線の輪を作り、その輪を両側耳介の「つけ根」を1廻りするように密着させ、その銀線に1分間40~1,000回の頻率にて20分間連続波を通電する。

銀線の太さは耳輪根部に密着できる位のもので、患者の耳の大きさにしたがって各個に作る。



以上、歯科領域に関係ある新知見を紹介したが、最近はMSA会の会員も多く、同学院にて、卒後研修や情報交換に来校すると陳学院長は大変喜んでおられた。殊の外本会員には便宜を計りたいと申し述べられている。

あ と が き

●懸案の国際東洋医学協力が、いよいよ来年4月に韓国ソウルにて旗上げする。韓国の慶熙大学元教授の柳根哲博士の情熱的なお骨折りと相俟って、今夏の谷副会長を団長とする訪韓研修団一行の努力の成果といえよう。医療技術の交流と統一及び親睦を本会の目的としたいと本誌3号に呼びかけてから1年、心からその実現と発展を祈念したい。

●武見日医会長は、西洋医学の見地からだけで東洋医学を評価してはならない。西洋医学で不足や行き詰まりがあるから、東洋医学を必要とすると喝破し、長い歴史をもつ伝承医学の本質を正しく理解されている。MSA会も、もう350名の会員を擁し、各会員夫々の立場で研究に臨床に活躍しているが、歯科の分野でも、近年、ハリ医学の歯科的応用は目ざましいものがあり、本誌上で紹介した本会会員の企画による歯科セミナーの成功もその一コマであり、心から祝福してやまない。

●間中会長も益々御元気で、世界の東洋医学者の先端にたって指揮されている。「勇将の下に弱卒なし」であれば、われわれ会員も、もっと発奮、努力精進せねばなるまい。

（福岡記）

編 集 委 員 会

編 集 顧 問 間 中 喜 雄

編 集 委 員 長 谷 美 智 士

医 科 副 委 員 長 吉 元 昭 治 ・ 三 浦 輝 雄 ・ 森 元 寿 夫

歯 科 副 委 員 長 福 岡 明 ・ 松 平 邦 夫 ・ 渡 辺 敏 雄